

構想区域	名称	1.今後の方針			2.具体的な計画												②具体的な内容	③年次スケジュール
		①自施設の現状及び課題	②地域において今後担うべき役割	③今後持つべき病床機能	①4機能ごとの病床のあり方について						2025年度							
					病床数(平成29年度病床機能報告)						高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設		
高度	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	高度	急性期	回復期	慢性期	合計	介護施設							
鈴亀	高木病院	<ul style="list-style-type: none"> 全病床79床が医療療養病床であり、9割以上の患者が脳血管障害等の重度の障害を有している。気管切開(うち10人程度は人工呼吸器装着者)は、7割の患者に施行されており、頻回の喀痰吸引が必要。また、8割が経管栄養(胃瘻及び経鼻経管)。そのため、従来の一般病床と同程度の高度医療継続が求められ、今後は看護・介護スタッフの業務負担増大が検討すべき課題となる。 	<ul style="list-style-type: none"> かかりつけ病院として地域密着型の医療を目指しており、今後も地域中核病院から高度医療の継続を必要とする慢性期患者を受け入れていく。 同時に、一次救急告示病院として救急患者の受入も継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期治療が終了した後の慢性期高度医療継続が必要な患者は、今後、益々増加すると考えられ、当院のような慢性期高度医療に対応可能な病院は鈴亀地域においては必要不可欠であり、かつ、希少である。今後その役割を継続して行っていきたい。 	0	0	0	79	0	79	0	0	0	79	79	0		
鈴亀	村瀬病院	<ul style="list-style-type: none"> 地域一般病棟・回復期リハビリテーション病棟・医療療養病棟のケアミックス病院。 地域の高度急性期病院や診療所・介護施設・福祉施設との連携を担っている。今後はさらに急性期病院からの受入機能を充実させていく必要がある。 人工透析は外来だけでなく入院でも対応可能であり、急性期～回復期～慢性期病棟の対象患者でも人工透析も可能な病院ということを周知していくことが課題である。 在宅復帰率と重症患者の改善率を高めて入院支援を強化し、さらなる受入を推進する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般病棟・回復期リハビリテーション病棟・医療療養病棟をフル活用して、地域連携医療を推進して地域包括ケアに貢献する。 高度急性期を担う基幹病院(鈴鹿中央総合病院・鈴鹿回生病院)等の後方病院として、ケアミックス病院の特色を活かした医療サービスで、さらなる受入の強化を図る。特に鈴鹿亀山地区で発生した回復期患者を積極的に受け入れ、在宅復帰に向けた支援をして地域完結を目指していく。 入院患者の退院及び在宅復帰に向け、かかりつけ医や介護・福祉施設と連携を強化する。 一次救急を担う病院として地域医療に貢献する。 専門性の高い整形外科医療・手術をより充実させ、地域医療に貢献する。 	<ul style="list-style-type: none"> 入院医療の大別(急性期医療、急性期医療～長期療養、長期療養)のうち、急性期医療～長期療養機能と長期療養機能を担う、地域一般病棟60床・回復期リハビリテーション病棟58床・医療療養病棟100床を維持して、切れ目のない医療を提供していく。 	0	60	98	60	0	218	0	60	98	60	218	0		
鈴亀	医療法人誠仁会 塩川病院	<ul style="list-style-type: none"> 鈴鹿市の中部エリアにあって、一般病床42床、回復期リハビリテーション病棟15床の2病棟57床を運営している。 三重先端医療PETセンター及び三重ガンマナイフセンター併設して、悪性腫瘍の検査・治療を行うとともに、急性期を経過し、在宅復帰・介護老人福祉施設等入所に向けた医療機能等の提供及び地域の福祉施設入所者の急変時対応等の役割を担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も現在当院が担う役割を的確に果たしていくため、医療資源の確保と設備の維持・更新を図りながら、地域の期待に応えられる医療機関として努めていく。 三重先端医療PETセンター及び三重ガンマナイフセンターを中心に、特に悪性腫瘍の早期発見、早期治療に貢献できるように努めていく。 地域の医療機関と適切で確かな連携と協力を図りながら、地域住民に安心して過ごしていただけるよう取り組んでいく。 生活習慣病の予防、がんの早期発見、健康寿命の延長等に資するため、健診センター機能にも積極的に対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	0	57	0	0	0	57	0	42	15	0	57	0	<ul style="list-style-type: none"> 2017年11月、一般病床の一部15床を回復期リハビリテーション病棟に変更 	<ul style="list-style-type: none"> 変更済
鈴亀	田中病院	<ul style="list-style-type: none"> 現在、療養病床を運営しているが、人員確保が課題である。特に理学療法士、作業療法士の採用が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 回復期病床の不足地域であることから、在宅復帰に向けた回復期機能を担うべきと認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括ケア病床(回復期) 	0	0	0	79	0	79	0	0	20	59	79	0	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士、作業療法士の採用状況により、リハビリ機能を拡充し、回復期病床への病床機能変更を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度も継続して、リハビリテーションスタッフの採用を促進する。 具体的な病床機能転換時期は未定である。
鈴亀	亀山回生病院	<ul style="list-style-type: none"> 近年の当院における病床利用率は安定的に推移していたが、地域連携を積極的に取り組んだ結果、平成30年度より病床利用率は増加傾向となり、平均在院日数は短縮傾向となった。引き続き、病床の有効利用を目指していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 鈴亀地区の慢性期病床は2015年度病床機能報告の625床に対して、2025年必要病床数は503床と少ない。しかしながら、鈴亀地区は津市、三河地区を含む多くの地域から慢性期患者が流入しており、慢性期病床の需要は高いと考えられ、当院には急性期からの転院先としての役割が求められていると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 急性期を担う病院の一部機能が急性期から回復期へ転換することが予測されるが、回復期と慢性期では患者層が異なるため、今後も当院は慢性期医療を担う病院としての役割を果たすとともに、引き続き近隣病院との地域連携のさらなる強化を目指していく。 	0	0	0	76	0	76	0	0	0	76	76	0		
鈴亀	白子ウィメンズホスピタル	<ul style="list-style-type: none"> 急性期医療機関として、地域の周産期医療を担っており、分娩件数900件以上を取り扱っている。 ハイリスク妊婦については高次医療機関と連携して、安全な周産期医療を提供している。 みえ出産前後からの子育て支援事業に協力して母子保健衛生にも注力している。 産婦の産後健診(2週間、1ヵ月)を行っている。 新生児については、1ヵ月健診を行い、小児科に繋いでいる。 その他、がん検診など婦人科疾患を取り扱っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心な分娩ができるよう、急性期医療機関として周産期医療を担っていく。 引き続き、鈴鹿市や三重県の医療保健事業に協力しながら、母子保健対策にも貢献していく。 少子高齢化対策事業に協力しながら、産婦人科疾患の保健医療を担っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も急性期医療機関として継続していく。 	0	29	0	0	0	29	0	29	0	0	29	0		